令和２年度　自己評価実践報告書

学　校　名　　福島県立福島東高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

１『学校経営・運営ビジョン』について

(1)　『学校経営・運営ビジョン』（別紙１）

(2)　作成のねらい、意図、プロセス等

「令和２年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『学校経営・運営ビジョン』の作成及び評価を実施した。令和元年度の改善点を踏襲した。

①　『学校経営・運営ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。

②　『学校経営・運営ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。

③　『学校経営・運営ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。

④　各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せて総括評価を第２回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。

⑤　全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。

⑥　教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。

２　校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけている。

３　自己評価等の進め方について（別紙２）

『年間計画表』作成のねらい、意図、プロセス等

Ⅱ　評価結果の概要

１　各部・学年・教科の年度末評価（別紙３）

２　「学校経営・運営ビジョン」に対するアンケート調査及びその結果（別紙４、５）

(1)　調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	11月30日（月）	12月10日（木）	96.9%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者			91.3%	
教職員	11月30日（月）	12月10日（木）	96.3%	

(2)　評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の４段階評価とした。

３　年度末評価のまとめ（『ビジョン』の総括評価）

(1)　教職員による評価

①　重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にしている。授業交換等により自習も少ない。「大学進学のための学力向上推進事業」は計画通り実施され、進路指導部は３学年と連携し情報提供に努めた。今年度より大学入試制度も変わり、大学合格

者については、２月末現在のところ、国公立の学校推薦型・総合選抜型の合格者数は昨年度より多かった。昨年度までの大学入試センター試験の本校の平均点は全国平均を下回っており、今年度からの大学入学共通テストに向け学習指導においては、さらなる対策が必要である。

英語科は昨年度に引き続き外部資格試験（英検）受験を促そうとしたが、新型コロナウイルス感染症のため思うようには行かなかった。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。特に、１、２学年の平日の家庭学習時間の確保が課題である。

②　重点②「体育文化活動の充実」

多くの生徒が部活動を継続し文武両道を実践している。

美術部、書道部が全国大会に、サッカー部、陸上競技部、弓道部、柔道部が東北大会に出場した。

③　重点③「キャリア教育の充実」

授業に加えて、地域社会見学、模擬選挙等、行政、地域企業等とタイアップしての取り組みが行われているが、総合的なコミュニケーション力の育成については、まだまだ学校全体で改善の余地がある。

新体力テストＡ級取得者数の割合を全校で５％アップを目指したが、昨年度より４％減、一昨年より２％減の３２％であった。依然として３０％を超え、他校と比較しても高水準を維持している。

平成３０年度より、歯科治療率１００％を指標の一つとした。昨年度は４５％、今年度は３１．５％（１／２６現在）であり、昨年度の４３．４％より減少した。これは新型コロナウイルス感染症により検診時期が遅かったこと等が考えられる。痛み出してからは遅いので、さらなる働きかけをし、歯科治療率を１００％に近づけたい。

図書貸し出し数は、3，７７７冊（1/２６現在）で１人あたり４．７冊であり、昨年度より１．６冊増えている。本校図書館の入館者数も１０，２５６人（１２月末現在）であり、昨年度より１，１００人増えている。読書については良い傾向がみられた。

ＳＮＳの使い方や依存の問題は本校においても課題であり、平成３０年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に、外部講師による講話を実施している。なお、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学後に生徒のみで実施する予定であったが、実施日に台風による一斉下校となり中止となった。そのため、生徒指導部で資料等を作成し、生徒・保護者に配付、ホームページにも掲載し注意喚起を行った。

④　重点④「情報発信・共有、施設の活用」

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールしている。今年度の東高見学会は、２日間に分けて新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施し、かなりの中学生が参加し、参加者からは好評であった。また、ホームページによる情報発信を頻繁に行い、毎日１０００件以上のアクセスがあった。さらに、台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡や新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業の際、緊急連絡メール、ホームページが効果的に活用することができた。

⑤　その他

令和元年度より４５分授業から５０分授業に移行し時程も変更した。部活動の時間を確保しつつ、文武両面での本校のよき伝統を維持するとともに、地域に慕われる特色ある学校を築いていきたい。なお、今年度は「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートの生徒、保護者の回答率が上がった。

⑥　総括

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、当初の計画通りの教育活動を実施することができなかった。しかし、教員は熱心に生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等で関わり、３年生は進路目標の達成、部活動での上位大会への進出等、各方面で成果を出している。

例年、生徒・保護者・教員に実施している「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートをみると、「子どもを東高に入学させてよかったと思う」という問いに対する保護者の回答は、そう思う５３．８％とややそう思う３８．３％を合わせると９２．１％であり、９割以上の保護者に満足していただいている。「東高に入学してよかったか」という問いにそう思うと答えた生徒は、平成３０年度の３０．５％から、昨年度３０．８％、今年度３９．０％と増加し、今年度はそう思うとややそう思う４２．１％を合わせると８１．１％であり、昨年度７７．６％より増加している。また、「文武両道」というモットーが素晴らしいと思っている生徒は、平成３０年度２６．９％、昨年度２４．４％から今年度３０．６％と６％増加した。

一方、気になるところは、学年によってアンケート結果に差があること、生徒・保護者の思いと教員の思いに違いやずれが見られることである。このことについては、早急に検討対応し、改善を含め教育活動に反映させていきたい。

不登校・長欠、学校不適応、学業・進路、友人関係の悩みでスクールカウンセラーからカウンセリングを受ける生徒も少なくない。課題の内容や量等の学習指導についても改善を図り、学校に適応できない生徒の指導について具体的な改善策を講じる必要がある。

さらに、長時間勤務をしている教員も少なくない。東高の教育目標の達成のためにはどうしても教員の力が必要であるが、そのためにも健康でいる必要があり、教員の働き方の改善にも努めていく。

昨年度、本校は創立４０周年を迎えた。今後は５０周年に向け、本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を入学してくる生徒に伝え、新しい伝統を築き、文武を両立させて勉学の時間が確保でき、地域住民の思いにもバランスの良い学校経営・運営を図っていきたい。

(2) 学校評議員による評価

① 肯定的な評価

（ア） 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について

・『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制に関しては、４つの項目のすべてで適切に整備と機能がなされているように思われるそのなかでも、①と③については、視覚的にもとてもわかりやすく構成・提示されている。校長・教頭を中心として教職員の一丸となった学校の姿が感じられる。この点は非常に評価したい。

・重点取り組みの項目それぞれに、「指標」として具体的な数値目的具体的な数値目標を掲げており、それが全教職員に浸透していると感じました。昨年度よりも保護者・生徒に確実に伝わっているものと推察されます。学校全体が組織的に生徒に対峙している印象で好感が持てます。

・知識だけでなく、変動する社会情勢に柔軟に対応できる力を育む時代に合ったビジョンであると評価する。

（イ） 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について

・『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価に関しても、２つの項目ともに適切に行われている模様が、とりわけ「令和２年度学校経営・運営ビジョンに対する学校評価」を通して見ると良くわかる。学校の経営と運営における活動・評価・改善というものが、常に一連の流れでもって、きちんと行われているのだろう。

・数値目標を掲げたことで、実態に沿った自己評価がなされていると感じます。そのことが具体的な改善行動につながっているのではないでしょうか。

・例年とは違った指導環境だったにも係わらず、安心して指導ができる環境と評価した教員が増加したことは喜ばしい。学年枠を超えた教科会や学校見学会を実施したことは、来年度の受験生増加に繋がったと思う。

（ウ）　広報とアンケート等について

・この点も上記の１および２と同様に、学校の任として行っている様子が、たとえば「学校案内」や「Ｗｅｂページ」から見受けられる。

・Ｗｅｂや紙媒体での情報発信により、広く内外に周知されていると思います。アンケートの科学的分析に基づいた課題要素は、適切に公開・共有されていると感じました。

（エ）　取組み状況全体について

・取組み状況の全体については、特に項目の③が客観的に見ても非常に良いことがわかる。これは、東高の標語ともいうべき「文武両道」が地域・社会に浸透しているからであるだろう。この点は東高の強みでもあるので、変わらずに継続して力を入れて行っていってほしい点である。

・共通テスト等の入試システムが変わり、教員の負担は大であったと思う。その中、公募推薦の出願者が増加し、合格者多数の結果を出したことは、適切な目標改善がなされたからだと思われる。次年度の指導体制に生かし満足度を上げて欲しい。

（オ）　自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

・概ね行われていると思われる。生徒、学校、地域、そして保護者を含めると、４者の視点と観点になり、それらを一つにまとめるというのは現在の社会状況を鑑みてもとても困難であることは間違いないが、可能な限りそれぞれの声を実際に聞いて、４者にとって共通的で統一的なビジョン、その作成・実行・展開を今後も引き続き行っていってほしい。

・取り組み目標に対する反省から、今後の課題と数値的な目標設定など、常に前進と挑戦の姿勢が感じられます。

・教職員による各中学校訪問や文武両道の意義への理解に取り組む姿勢は、目標改善に繋がっている。教員養成コースも新設されれば、東高の更なる発展が期待できる。

②　改善を要する点

（ア）　『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について

・特になし。

（イ）　『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について

・外的変化に対応するための、自己（学校）変革を取り入れてはいかがでしょうか。

（ウ）　広報とアンケート等について

・学校としては生徒とその保護者への情報の提供は、当然といえば当然であるが、地域の人々へのそれは意識的に行わないと後回しになりがちになるので、常に同時に行うということを忘れないでほしい（地域・社会があっての高校という観点を）。

・コロナ禍で人との直接的な接触が制限され、益々Ｗｅｂでの交流や情報交換が必要となる。学校内や個人のネット環境が改善され次第、更なる活用の仕方の検討、指導することを望む。

（エ）　取組み状況全体について

・「保護者の満足度」を重視し過ぎると、生徒が求めるニーズ（学校像やカリキュラム等）との剥離が生まれるのではないか懸念されます。誰のための学校かという「本筋」がシンプルでブレがなければ、教職員の皆さんの仕事のしやすさや、生徒たちの満足度向上に繋がるのではないでしょうか。

（オ）　自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

・保護者や地域社会に対する活動内容の提示は、受け取る側の目線で展望を示していただければありがたいです。

③　その他

・今年度は、校長先生が多くの中学校に出向いて学校説明会を行ったということを先日の会において聞いたので、これは次年度も継続して行った方が良いと思います。入学試験の倍率も上がったのは、この活動があったからではないでしょうか。（地道に汗をかくことが、今の時代、いや、このような時代だからこそ大事なのではないかと思います。）

・先日の会でも言ったことで繰り返しになりますが、学校は生徒が主に活動する場であるという点を、常に、考えながら頭の片隅におきながら、学校の運営・経営等を行っていってください。時代が変われば、社会も変わり、人も変わります。その反面、変わらない、変わってはいけない点があるのも確かです。でも、いつの時代においても、学校では生徒がメイン・中心であることは変わらないはずだと私は捉えています。
・地域コミュニティと学校との関係は、生徒・児童の安全や健全な成長を見守る意味において密接に交流していく事が大切だと感じます。生徒や教職員の皆さんは、少なくとも在学・在職中は地域の一員であるという意識を持てるような機会をつくれないものでしょうか。部活動の成果などは、屋外掲示だけでなく生徒たち手造りの「Ｔｈａｎｋｓ　Ｃａｒｄ」などをポスティングしてはいかがでしょう。地域の応援団がもっと増えるような気がします。
・今年度は、生徒の皆さんにとって試練の年度になったことと思います。社会全体がコロナ禍に覆いつくされ、目標を見失ったり意欲を削がれたりした場面もあったことでしょう。特に３年生は、高校生活最後の年をさまざまな制約の中で過ごすことになった事を生涯忘れることができないでしょう。もちろん教職員の皆さんも、生徒たちにとって何が最善かを常に念頭に置いて行動させてきたことと思います。社会に出れば困難や壁にぶつかることは決して稀なことではありません。少しだけ早くそれを経験したことで、乗り越える力と知恵を身につけることができたものと確信しています。常に前向きに「この時だから出来ることをやった」と、あとで言える人間は強いと思います。また、教職員の皆さんの教育に対する熱意と、生徒に注がれている愛情が、「厳愛と慈愛」となって生徒たちに伝わっているものと信じています。
・小中学校では将来に繋げるための職場見学や体験等をしているのに、高校になると地域とは隔離してしまうのが現状である。リモート等を利用活用し、地域交流に参加できる機会があればよいと思う。
・保護者とは違う視線で学校経営を見させていただき感謝いたします。東高校の更なる発展を地域住民として見守りたいと思います。

Ⅲ　広報の概要

１　『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価（学校評議員による評価を含む）については、学校のホームページで公表する。

２　アンケート調査結果については、今年度中に保護者へ文書で報告するとともに、次年度ＰＴＡ総会等で配布する。

３　学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信（『東高通信』（教務部）、ほけんだより、東高図書だより、進路だより、生徒会新聞、東高新聞（新聞委員会）、生徒会誌『まほろば』、図書館報、ＰＴＡ広報紙・新聞）等で、保護者等への広報に努めている。

Ⅳ　次年度へ向けて

１　令和３年度の学校経営方針（素案）

(1)　４つの重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、「豊かな人間性を備え、新たな知や価値を創造していく生徒」「地域のリーダーとなり、地域から愛される学校」を目指し、各部・学年・教科等の目標をもとに、各部署で具体的指標を定めて実践する。

(2)　本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と教育界の動向を踏まえ、普通科における本校の特色あるコース制として平成５年度からの教員養成コースの導入に向け、カリキュラムの改善を着実に進める。議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。